

岐阜市金華山の自動撮影カメラと利用客アンケートから
イノシシとの遭遇に関するリスク管理を提言

(Global Ecology and Conservation に 2019 年 4 月 18 日付で掲載)

国立大学法人岐阜大学 応用生物科学部附属野生動物管理学研究センターの池田敬特任助教¹、國永尚稔研究員¹、応用生物科学部の鈴木正嗣教授²、同大学院連合獣医学研究科院生の生島詩織さん³、国立環境研究所 生物・生態系環境センターの鈴木嵩彬高度技能専門員⁴の研究グループは、「岐阜市金華山一帯のイノシシ被害対策協議会」の中で、金華山におけるイノシシ生態調査を実施しています。

その過程で、本研究グループは岐阜市及び岐阜森林管理署と協力のもと、自動撮影カメラを用いたイノシシの生態調査と利用客へのアンケート調査を実施し、岐阜市金華山における人とイノシシの遭遇に関するリスク管理を提言しました。

本研究成果は、学術誌「Global Ecology and Conservation」に 2019 年 4 月 18 日付で掲載されました。

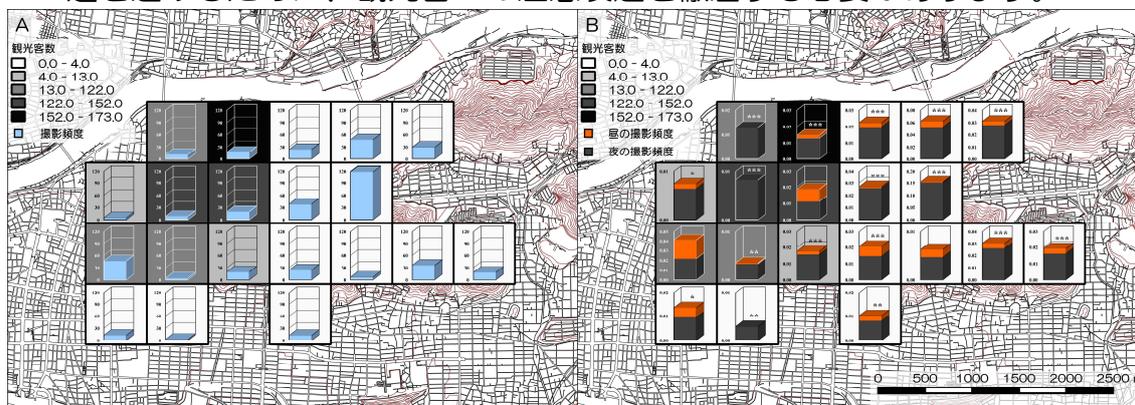
※所属詳細

1：岐阜大学 応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター、2：岐阜大学 応用生物科学部 共同獣医学科、3：岐阜大学大学院 連合獣医学研究科 獣医学専攻、4：国立環境研究所 生物・生態系環境センター 生態リスク評価・対策研究室

【研究のポイント】

- ・都市における観光客とイノシシの遭遇リスクを自動撮影カメラによるイノシシの生態調査と利用客へのアンケート調査から明らかにしました。
- ・イノシシは昼に観光客や住宅地を避けて分布している一方で、夜になると、住宅地を避けながら、耕作地周辺に分布していました。
- ・イノシシは夜を中心に撮影されましたが、観光客も多く利用している一部地域では昼にも撮影されました（図）。
- ・以上のことから、イノシシが多く分布している地域では、周辺住民への注意喚起を実施する必要があります。

- さらに、イノシシが昼に撮影され、観光客も利用する地域では、両者の遭遇を避けるために、観光客への注意喚起を徹底する必要があります。



図：金華山の各調査メッシュにおける利用者の数（白～黒）とイノシシの撮影頻度（左図）、昼と夜の撮影頻度（右図）

【研究の概要】

都市における野生動物は、人身被害や交通事故、感染症の媒介などの様々な問題を引き起こしています。特に、人とイノシシの問題は世界的にも1990年代から生じており、日本でも近年イノシシによる人身被害が増加しています。このような問題を減らすためには、イノシシの分布を把握した上での捕獲や、人とイノシシが遭遇しないための注意喚起が必要になります。

そこで本研究は、2017年8月から2018年11月に岐阜市金華山で自動撮影カメラを用いたイノシシの生態調査と利用客へのアンケート調査を実施しました。これらの調査から、イノシシの分布や撮影される時間、観光客が利用する場所を解明することで、イノシシを管理する上での対策優先エリアを視覚的に把握することを試みました。

その結果、イノシシは昼に観光客や住宅地を避けて分布している一方で、夜になると、住宅地を避けながら、耕作地周辺に分布していました。また、イノシシは夜を中心に撮影されましたが、観光客も多く利用している一部地域では昼にも撮影されました（図）。

以上のことから、イノシシが多く分布している地域では、周辺住民への注意喚起を実施する必要があります。さらに、イノシシが昼に撮影され、観光客も利用する地域では、両者の遭遇を避けるために、観光客への注意喚起を徹底する必要があります。今後は視覚化した結果を数値化し、対策の重点地域を選定したいと考えています。また、管理すべきリスクの数値化は、都市

の観光地だけではなく、国立公園などの野生動物管理にも応用することが期待されます。

【研究論文】

論文タイトル：Tourist-wild boar (*Sus scrofa*) interactions in urban wildlife management

論文著者：池田 敬、國永尚稔、鈴木嵩彬、生島詩織、鈴木正嗣

掲載雑誌：Global Ecology and Conservation

掲載日：2019年4月18日

掲載URL：

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S235198941930068X>

【本件に関する問い合わせ先】

岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学
研究センター

特任助教 池田 敬 (いけだ たかし)

TEL：058-293-3416 (直通)

E-mail：ikedat@gifu-u.ac.jp